

校内研修計画

山梨市立日川小学校

1 本校の課題

全国学力学習状況調査や県学力把握調査の結果から、本校の児童たちは、基礎基本の定着が十分でないという実態が明らかになった。活用学習においてもその影響が見られ、自分の考えを書いたり伝えたりすることに苦手意識をもっている傾向がある。そのため、無回答率が高いという結果が出ている。これらのことから、知識や技能の確実な定着と自分の考えを表現することに、本校の課題が見られる。また、家庭学習の習慣化につなげるため、引き続き自主学習を促す取組を行う必要がある。

2 研究主題

自ら学ぶ子どもを育てる授業づくり
～活用学習の深化と広がりをとおして～

3 主題設定の理由

本校では、これまで山梨県学力向上パイロットスクール事業で取り組んだ活用学習と学級力向上プロジェクトの二本立てで研究を積み重ねてきた。活用学習では、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用して、三段階思考法で自分の考えを書く活動を行ってきた。これまでの取組をとおし、少しずつ自分の考えを整理して論述することができるようになってきたが、個人差がある。中には、なかなか書き始められない児童や最後まで書き終えることができない児童もいることは確かである。そういった児童への書き方の支援や工夫をさらに考えていくことが必要である。

また、児童が抱える課題に対応する具体的な支援を行うだけでなく、児童の「もっと学びたい」という気持ちを育てることも、学力向上の土台となる。なぜなら、活用学習で扱う「難しい」問題に挑戦する行動のベースには、児童の「もっと詳しく知りたい」「もっと難しい問題に挑戦したい」という欲求があるからである。児童がその欲求をもてるような授業づくりをしていくことが、より質の高い学力へとつながるのではないかと考える。

児童自らが学びたいと思えるような授業をつくっていくには、いくつかの視点から授業を見直す必要がある。個人差がある集団の中ではどのような学習スタイルが有効なのか、児童が興味関心を示す学習内容とは何か、子どもの問いを生む教師の投げかけはどのようなものがあるのかなど、よりさまざまな視点から活用学習を見直し、具体的な方策を探っていくことをくり返すことで、明らかにしていきたい。

このような実践を積み重ねていくことをとおして、やがて児童たちの学力や教師の指導力、さらに学級力の高まりが図れると考え、このテーマを設定した。

4 研究の具体的内容と方法

【内容】

- 活用学習・・・算数科だけでなく算数科以外の教科での活用学習を広げていく。
活用学習をとおして、児童の学習意欲を引き出す有効な手立てを探る。
- 学級力・・・児童同士、教師と児童間のリレーションシップが円滑になるように、学年の実態に合った取組（スマイルアクション）を行う。
- 英語、特別支援・・・校内の学習会を行い、教職員間において指導観の共有化を図る。
- 朝学習、家庭学習（家庭学習ノート）、授業見学、ノート展示会などの取組を継続する。

【方法】

- 授業実践について
 - ・全体研究授業は2回（活用学習）
 - ・一人一実践（活用学習）
- 学級力向上
 - ・学級力アンケート、レーダーチャート、スマイルアクションを計画的に実施する。
 - ・全学級で情報交換をする（年1回）

年間校内研修計画

研究主任 小林 みずほ

| 研究テーマ | 教科領域等 | 担当者 | 学年 | 授業の時期 | T・C要請 |
|--|---|--------|---------|-------|-------|
| 自ら学ぶ子どもを育てる授業づくり ～活用学習の深化と広がりをとおして～ | 国語科 「気になる記号」 | 小林 みずほ | 3 | 6月 | |
| | 算数科 「形も大きさも 同じ図形を調べよう」 | 飯島 裕明 | 5 | 7月 | |
| | 国語科 「新聞を作ろう」 | 武井 美奈子 | 4 | 7月 | |
| | 国語科 「未来がよりよく あるために」 | 中山 貴彰 | 6 | 10月 | |
| | 国語科 「未来がよりよく あるために」 | 志村 貴美子 | 6 | 10月 | ○ |
| | 全体研究授業 国語科 「せつめいのしかたに気をつけて読もう しかけカードの作り方 おもちゃの作り方 | 行田 玲子 | 2 | 11月 | ○ |
| | 算数科 「けいさんびらみっど」 | 竹川 きよみ | 1 | 12月 | |
| | 算数科 「どんなけいさんになるのかな」 | 平塚 すみり | 1 特支 | 12月 | |